

ハンドペイント作家・遠藤さん(新潟西区)



自ら絵付けした浴衣を着てグラスペイントについて語る遠藤綾子さん=16日、米ニューヨーク

開かれた。遠藤さんは約50人の日本人作家が絵画や書工芸品などを出品した。活動歴20年以上という遠藤さんは、ガラス製品にフランス製の専用絵の具で絵を描き、焼き付ける「グラスペイント」などで高く評価されている。

出展したのはガラス製の器と水指。初のNY出展にあたっては、新潟産にこだわり、新潟市秋葉区の工場で製造されたガラスを用いた。絵の具で日本の季節をイメージしたアサガオやサクラを鮮やかに描き、涼しげな作品に仕上げた。

展覧会では、江南区の伝統織物「亀田縞」に自ら花模様を絵付けした浴衣を着て、新潟をアピール。「現地の方にも『きれい』『写真を撮らせて』と言われて好評でした」とほほ笑む。来年はドバイでも出展する。遠藤さんは「グラスペイントは気軽にできるが奥が深い。国内外問わず新潟に興味を持つてもらえる作品を作つていきたい」と話した。

新潟市西区のハンドペイント作家遠藤綾子さん(58)が米ニューヨーク(NY)で18日まで開かれた

展覧会に出展し、和の情緒漂う二つのガラス作品を

披露した。遠藤さんは「世界のアートの拠点を訪れ、海外向けのデザインを考える上でヒントになった

と語った。

**NY発**

New York

展覧会は東京のアート関係企業が主催し、マンハッタン南東部のギャラリーで

(本社国際交流拠点NY事務所・山田啓介)